

校長室より

「天空高き」



第139号



令和2年11月2日

今日だけは頑張ってみよう

千住真理子「聞いてヴァイオリンの詩」より。

『ある番組で、ボランティア活動にかかわる多くの人とめぐり会うチャンスを得た。(中略)

ある日、ドラッグにおぼれる青少年たちを救おうとボランティア活動をしている男性がゲストとして登場した。自らもドラッグにおぼれた経験のある彼は、薬の持つ異常な魔力と、一度はまった者はめったに抜け出すことのできない恐ろしさを語ってくれた。何日間かやめていると、たとえようほどもないほどの苦痛に襲われるという。このまま一生こんなつらいことが続くのか、と思うととてもじゃないが頑張れない。そしてまた薬に戻ってしまうらしい。

「しかしね」、その男性は語調をゆるめて続けた。

「今日一日だけやめよう、と思うとその日はやめられる。次の日、また、“今日一日だけ”って決心するんだ。その連続が自分です。」

そう言った後の彼の笑顔はすてきに輝いていた。

ヴァイオリンでも同じことがいえる。私は苦しかった自分の修業時代を振り返った。

毎日10時間の特訓に身体はいつも湿布薬の匂いで覆われ、それでもコリが治らなかった頃、「こんな生活が一生続くのか」と気持ちがなえる日もあった。そんなとき、ふと目にした雑誌にマラソン選手のインタビュー記事が載っていた。苦しくとも走り続けるコツを聞かれ、「次の電柱まで走ろう、いやあの建物まではと、目の先に目標を置くんです。目標は決してゴールじゃない」と答えていたのが印象的だったのだ。

“これから先どんなに希望が見えなくても、今日だけは頑張ってみよう”

そんな行き方のコツを教えてくれた、偉大なボランティアの人たちに心からの感謝をこめて、私もこれから先、ヴァイオリンを携えてボランティアコンサートをしていきたい。』



『昨年度、1年間に自殺した小・中学生と高校生は317人で、最も多かった前の年度から減ったものの、2年連続で300人を超えました。内訳は、小学生が4人、中

学生が91人、高校生が222人でした。また、男子が206人、女子が111人です。

自殺の要因（複数回答）は、「家庭の不和」が33人、「進路の問題」が32人、「父母などの叱責」が31人、「いじめ」が10人などとなっていますが、最も多かったのは「不明」の188人で、全体の6割近くに上りました。』（文科省）

誰もが心に、心配なことや不安なこと、悩みごとを抱えています。

9歳で失明、18歳で聴力も失いながら、東京大学教授となった福島智先生は、その著書『ぼくの命は言葉とともにある』の中で、「私の苦悩に関心を持ってくれ、支えてくれた人がいたからこそ、生きられたことを実感しています」と述べています。

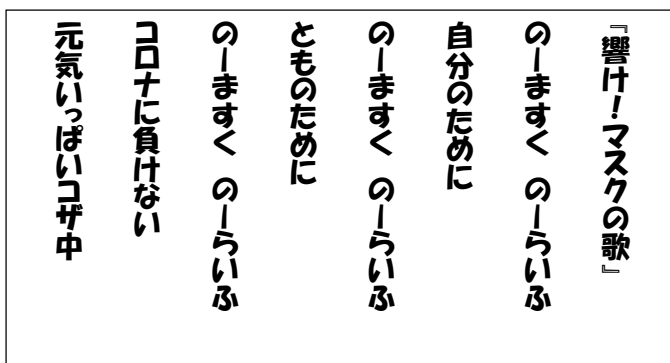
「あなたがいるから、頑張れる」。子どもをもつ母や父は、いつもこのようにあなたのことを思っています。あなたは決して一人ではありません。あなたがいるから私がいる。“これから先どんなに希望が見えないときがあるかもしれませんが、今日だけは頑張ってみよう”

のーますく のーらいふ ーコロナ禍の中でー

テレビをつけたら、いきなり右のような歌が流れてきました。

この歌は、新型コロナウイルス感染を防ごうと、沖縄市立コザ中学校の安森大樹教諭が、県内のバンド「HAR AHELLS」の楽曲を元に制作したそうです。

コザ中では8月中旬から、給食準備時間に校内で放送されているそうです。



この歌詞には、「のーますく のーらいふ」とあります。「マスクなしでは、自分のLife（命）やLife（生活）そしてLife（人生）を守れない。マスクなしでは、周りの仲間を守れない。互いに思い遣りながら、みんなでこのコロナ禍の状況を元気いっぱい乗り越えて行こう」という、願いが込められています。

私たちは今年の3月2日から春休みまで臨時休業。そして再び、4月15日から5月25日まで臨時休業しました。あの時と今の状況はどう変わったでしょうか。

最初の頃よりも随分私たちの日常生活は改善されています。しかし、新型コロナウイルス感染者は、日本でも世界でも確実に増加しています。これから寒くなると、インフルエンザの流行も懸念されています。あらためて、3密を避け、こまめな手洗い、マスク着用、そして、規則正しい生活を心がけて一緒に乗り越えていきましょう。

心に余裕をもってー自転車事故防止に向けてー

自転車は子供から大人まで幅広く利用される便利な乗り物です。現在、自転車の保有台数は世界第6位です。自動車とは違い誰もが乗る以上、必ず事故の危険やリスクが潜んでいます。

本校でも、生徒指導部、生徒会を中心に交通安全運転をお願いしていますが、残念ながら自転車事故が今年度当初から10件発生しています。

2017年12月に神奈川県で起きた自転車と歩行者の事故です。

『「女子大生を書類送検へ」と報じ、「神奈川県警麻生署が、重過失致死容疑で大学2年の女子学生（20）を年内にも書類送検する方針を固めた」と伝えた。』

そして記事中には、「事故当時、学生は左手にスマホ、ハンドルに添えた右手に飲料カップを持ち、左耳にイヤホンをしていた」とありました。

自転車事故の原因で一番多いのは、安全不確認(51.3%)。次に、一時不停止(19.8%)そして信号無視(7.8%)です。

毎日学校前の横断歩道前に立っていて、自転車通学生に是非守ってほしいのが、この「安全確認」です。校内に入るためには、自転車通学生は必ず、左折か右折をしなければなりません。左折、または右折前に、前方と左右を確認しなければいけません。これが実行されていません。特に、集団で走行している場合、安全確認をせず、前の自転車について走行しています。

自転車は道路交通法上『軽車両』の位置づけとなります。歩行者ではなく、車両扱いとなります。皆さんが加害者にならず、また被害者にならないためにも、

①スピードを出さない、②安全確認をする、③心に余裕を持つ、この3つを守って安全運転に心掛けてください。



ちょっといい話 2題

その1 電車に乗っている小学校低学年の男子とその父親。お年寄りが一人、乗ってきた。座っていた父親がすぐに席を譲った。「お父さん、知っている人？」と男子。父親は答えた。「人生の大先輩だよ」

その2 北海道の広い道。おばあさんが渡っているうちに、信号が赤になった。寄り添うようにしていた小学4年生ぐらいの男子が、片手をあげ、止まると車に会釈した。おばあさんが渡り終えると、男子は野球帽をとり、ペコンとお辞儀した。

「小さな親切」運動本部に寄せられた体験

11月の月間目標

今を前向きに全力で！

令和2年度
チャレンジ目標

- 1 5分前考動
- 2 整理整頓
- 3 先に元気な挨拶
- 4 1%を誰かのために

季節は冬の準備を迎える時期となりました。11月に入ると、3年生の皆さんは、推薦入試が本格化します。「備えあれば憂いなし」という諺があります。しっかり早目の準備をしてきたと思いますが、最後まで最善を尽くしてください。

1、2年生の皆さんにとっては、勉学にスポーツにそして読書に最適の時期です。

たった1冊の本との出会いで、人生が変わります。たった一人の人との出会いが、自分の人生のすべてを決定づけるほどの衝撃を与えてくれます。

人生を決定づけるのは「出会い」です。

人生を変えるような素晴らしい出会いが訪れるためには、今を、前向きに、全力で生きることが大事です。

小さい秋一校庭でー

ひと月前はまだまだ残暑を感じていましたが、日に日に深まりゆく秋を感じる頃となりました。北の国から次第に日本列島が美しく染まり、四季のある日本を嬉しく感じる頃でもあります。

コロナ禍の中で、なかなか紅葉狩りが難しい状況下ですが、本校の校庭で小さな秋を見つけました。皆さん、時に心安らぐひとときを過ごしたいですね。



二十四節気

立冬（りっとう）11月7日 暦の上で冬が始まる日です。

立冬の頃は各地で紅葉が進み、北日本では平地でも初雪の便りが聞かれる頃です。また、秋の日はつるべ落としと言われるように、日暮れが目立って早く感じられるようになります。岩国では日の入りが1か月で30分近く早まり、この日の日の入りは17時13分頃です。日の入りが早くなると気温が下がるのも早くなり、帰宅時には寒さを感じるようになります。

小雪（しょうせつ）11月22日

冷え込みが厳しくなり、小雪がちらつき始めるころという意味です。

10月中旬に北日本や東日本の山々で初冠雪を終え、小雪の頃の11月下旬にもなると西日本の山でも初冠雪を迎える頃です。

お天気.com